page2018

テーマ　アライアンスＮＥＸＴ

２月７日（水）～９日（金）　池袋サンシャインコンベンションセンター

公益社団法人日本印刷技術協会（会長：塚田司郎氏、以下・ＪＡＧＡＴ）が主催する印刷メディアビジネスの総合イベント「第31回　ｐａｇｅ２０１８」は、「アライアンス（※）ＮＥＸＴ」のテーマで、サンシャインシティコンベンションセンター（住所：東京都豊島区東池袋３丁目１番１号）で開催される。

「ｐａｇｅ２０１８」展の会場内ではビジネスに役立つカンファレンスやセミナー、ブース内での商談が活発に行われ、顧客拡大や情報交換の場として活用できる。（※）アライアンス＝国際的企業連合

【開催概要】

開催期間＝２０１８年２月７日㈬～９日㈮

場所＝池袋サンシャインコンベンションセンター

主催＝公益社団法人日本印刷技術協会

テーマ＝「アライアンスＮＥＸＴ」

「ｐａｇｅ２０１８」のテーマ「アライアンスＮＥＸＴ」は、たとえばバリアブル印刷のノウハウを熟知している印刷会社が、マーケティングノウハウと情報を持っている会社とアライアンスを組んでビジネスを行うことを意識している。

【２種類のツアー実施】

(1)出展企業厳選見どころツアー

「ｐａｇｅ２０１８」出展企業の中から厳選した８社の出展ブースを訪れる。出展企業によるプレゼンで、各社の出展ポイントを分かりやすく伝える。

＜訪問先企業＞

㈱メディアテクノロジージャパン／リコージャパン㈱／コダックジャパン／㈱両毛システムズ／㈱ミマキエンジニアリング／スターティアラボ㈱／クイックアート／楽天コミュニケーションズ㈱（訪問順）

＜スケジュール＞

▼１日目

▽Ｍ１・２月７日㈬午前10時30分～12時、講師・影山史枝氏（スイッチ）

▽Ｍ２・２月７日㈬午後２時～３時30分、講師・宮本泰夫氏（バリューマシーンインターナショナル）

▼２日目

▽Ｍ３・２月８日㈭午前10時30分～12時、講師・影山史枝氏（スイッチ）

▽Ｍ４・２月８日㈭午後２時～３時30分、講師・宮本泰夫氏（バリューマシーンインターナショナル）

▼最終日

▽Ｍ５・２月９日㈮午前10時30分～12時

▽Ｍ６・２月９日㈮午後２時～３時30分

（※）同ツアーはツアコンによる解説はしない。

(2)特別解説付き▼展示会Ｍｕｓｔ　Ｓｅｅツアー「ｐａｇｅ２０１８」の歩き方

コンサルタントによる特別セミナーと、解説を交えた展示ホールの見学がセットになった。同展のテーマ「アライアンスＮＥＸＴ編」と「デジタル印刷編」との２つのセッション。

実践的ソリューションを一堂に展示

――ＦＦＧＳ

富士フイルムグローバルグラフィックシステムズ㈱（社長：辻重紀氏、以下・ＦＦＧＳ）は、２月７日㈬から９日㈮まで東京・池袋で開催される「ｐａｇｅ２０１８」に「共創の力で、新次元の革新を」のテーマで出展する。

今回のｐａｇｅでは、クライアントとの共創や協力会社との連携をサポートする実践的なソリューションを一堂に展示。オンラインでのコミュニケーションを可能にするワークフローシステムから、戦略の幅を広げる最新デジタルプレス、生産基盤の強化に貢献する省資源ソリューションまで取り揃え、具体的なメリットや活用例を紹介。また７日㈬と９日㈮には、ＦＦＧＳセミナー（スポンサーズセミナー）を開催。それぞれ事例などを交えながら解説する。

富士ゼロックスのカラーオンデマンド・パブリッシングシステム

【ソリューション別の主な出展製品】

▼ワークフローソリューション

あらゆる戦略の基軸となる「ＸＭＦ」をはじめ印刷物受発注の新たなインフラとなるＷｅｂ　ｔｏ　Ｐｒｉｎｔシステム「ｉＡｕｔｏｌａｙ　Ｍａｇｉｃ」、多品種・小ロットのジョブ設計を効率化するプランニングソリューション「ＰＨＯＥＮＩＸ」、カラーマネージメントのサポートソリューションなど生産工程の効率化とともに〝クライアントや協力会社とのシームレスな連携〟を実現する最新のワークフローソリューションを紹介する。

◎ハイブリッドワークフローシステム「ＦＵＪＩＦＩＬＭ　ＷＯＲＫＦＬＯＷ　ＸＭＦ」◎ＭＩＳ連携強化ソフト「ＸＭＦ　Ｃｏｎｔｒｏｌｌｅｒ」◎Ｗｅｂポータルシステム「ＸＭＦ　Ｒｅｍｏｔｅ」◎バリアブル印刷ソフト「Ｆｏｒｍ　Ｍａｇｉｃ４」◎ＢｔｏＢ型Ｗｅｂ　ｔｏ　Ｐｒｉｎｔシステム「ｉＡｕｔｏｌａｙ　Ｍａｇｉｃ」◎面付け・プランニングソリューション「ＰＨＯＥＮＩＸ」◎ファインジェットプルーファー「ＰＲＩＭＯＪＥＴ　ＳＯＦＴ－ＸＧ」◎カラーマネージメント支援プログラム「ｉ－ＣｏｌｏｒＱＣ」◎サポート（富士フイルムＧＳテクノ）「ｉ－ＣｏｌｏｒＱＣ　プリントナビゲーション」ＦＵＪＩＦＩＬＭ　ＧＡ　Ａｃｔｉｖｅ　Ｓｕｐｐｏｒｔ

▼デジタルプレスソリューション

メタリックカラーなどの多彩な特殊色を手軽に再現できるカラーオンデマンド・パブリッシングシステム「富士ゼロックス　Ｉｒｉｄｅｓｓｅ　Ｐｒｏｄｕｃｔｉｏｎ　Ｐｒｅｓｓ」の実機を初出展。

◎カラーオンデマンド・パブリッシングシステム「富士ゼロックス　Ｉｒｉｄｅｓｓｅ　Ｐｒｏｄｕｃｔｉｏｎ　Ｐｒｅｓｓ（Ｎｅｗ）」◎ポストプレス機器

▼「ＦＵＪＩＦＩＬＭ　Ｉｎｋｊｅｔ　Ｔｅｃｈｎｏｌｏｇｙ」

富士フイルム独自のインクジェット技術「ＦＵＪＩＦＩＬＭ　Ｉｎｋｊｅｔ　Ｔｅｃｈｎｏｌｏｇｙ」を搭載したデジタルプレスのラインアップを、パネルによる解説やサンプル展示などで紹介。さらに最新のワイドフォーマット機「Ａｃｕｉｔｙ　ＬＥＤ　１６００Ｒ」の実機を初出展し、卓越した画質と生産性を出力デモで披露。

◎枚葉型インクジェットデジタルプレス　Ｊｅｔ　Ｐｒｅｓｓ　７２０Ｓ（パネル・サンプル展示）◎ハイパフォーマンス　ＬＥＤ　ＵＶインクジェットロールプリンタ「Ａｃｕｉｔｙ　ＬＥＤ　１６００Ｒ（ＮＥＷ）」◎ワイドフォーマットＵＶインクジェットプリンター（Ａｃｕｉｔｙ　Ｓｅｌｅｃｔ　２０Ｓｅｒｉｅｓ／Ｓｅｌｅｃｔ　ＨＳ　３０Ｓｅｒｉｅｓ／ＥＹパネル・サンプル展示）◎輪転型インクジェットデジタルプレス「富士ゼロックス　１４００／２８００　Ｉｎｋｊｅｔ　Ｃｏｌｏｒ　Ｃｏｎｔｉｎｕｏｕｓ　Ｆｅｅｄ　Ｐｒｉｎｔｉｎｇ　Ｓｙｓｔｅｍ」（パネル・サンプル展示）

▼省資源ソリューション「ＦＵＪＩＦＩＬＭ　ＳＵＰＥＲＩＡ」

抜群の省資源効果、有処理プレートと同等の印刷適性などで好評の完全無処理ＣＴＰプレート「ＳＵＰＥＲＩＡ　ＺＤ／ＺＰ」をはじめ、きめ細かいメニュー体系で印刷工程改善をサポートする「Ｅｃｏ　＆　Ｆａｓｔ　Ｐｒｉｎｔｉｎｇ」など、ＳＵＰＥＲＩＡを構成する各ソリューションの具体的なメリットを、豊富なユーザー事例とともにわかりやすく紹介。

◎省スペース無処理ＣＴＰストッカー（仮称・参考出品）◎完全無処理サーマルＣＴＰシステム「ＳＵＰＥＲＩＡ　ＺＰ／ＺＤ（Ｎｅｗ）」◎サーマルＣＴＰシステム「ＳＵＰＥＲＩＡ　サーマルＣＴＰプレート」◎環境対応印刷関連薬品「ＰＲＥＳＳＭＡＸ　ＳＥＲＩＥＳ」◎印刷工程改善　支援ソリューション「Ｅｃｏ　＆　Ｆａｓｔ　Ｐｒｉｎｔｉｎｇ」

▼パッケージソリューション

軟包装の小ロット・多品種・短納期化に対応する新戦力として注目を集めるＵＶインクジェットデジタルプレス「Ｊｅｔ　Ｐｒｅｓｓ　５４０Ｗ　Ｖ」、環境性と高品質の両立を実現するフレキソ製版システム「ＦＬＥＮＥＸ」シリーズを中心に、パッケージビジネスを支える最新ソリューションを紹介。

◎軟包装用ＵＶインクジェットデジタルプレス「Ｊｅｔ　Ｐｒｅｓｓ　５４０ＷＶ」（Ｎｅｗ）（パネル・サンプル展示）◎フレキソ製版システム「ＦＬＥＮＥＸ　ＳＹＳＴＥＭ」◎水現像タイプ　フレキソ版　ＦＬＥＮＥＸ　ＦＷ－Ｌ２（Ｎｅｗ）◎感光性樹脂凸版　富士トレリーフＸタイプ◎パッケージ印刷用ファインジェットプルーファー「ＧＰ－ＰＲＩＭＯＪＥＴ　Ｂａｓｉｃ」（パネル・サンプル展示）◎全自動洗浄システム「Ｆｌｅｘｏ　Ｗａｓｈ」（パネル・サンプル展示）

【ＦＦＧＳセミナー】

◇２月７日㈬13時～14時◎利益を生む！　ＩＴを駆使してオフセット印刷とデジタル印刷を最大活用するには～新規ジョブを獲得する仕組みと、利益アップを実現するワークフロー～

＜講師＞①富士フイルムグローバルグラフィックシステムズ㈱ワークフロー営業部部長：佐々木健至氏②富士ゼロックス㈱グラフィックコミュニケーション事業本部開発統括第１商品開発部ＷＦＳＯＩ開発Ｔチーム長：荻野賢氏

◇２月９日㈮13時～14時◎テーマ「Ｉｎｎｏｖａｔｉｏｎ　ｉｎ　Ｐｌａｔｅ　Ｍａｋｉｎｇ」

＜講師＞富士フイルムグローバルグラフィックシステムズ㈱技術１部部長：西川博史氏

時間＝12時30分受付・13時開始（２日間共通）

会場＝サンシャインシティワールドインポートマート５Ｆ

定員＝各回１００名

導入実績No.１「アズーラ」が支持されるのは？

――日本アグファ・ゲバルト

日本アグファ・ゲバルト㈱（本社：東京都品川区大崎１、大崎ニューシティビル１号館５Ｆ、代表取締役社長：松石浩行氏）は「ｐａｇｅ２０１８」に「ＷＥ　ＥＭＢＯＤＹ　ＰＲＩＮＴ～印刷で想いをカタチにする～」をテーマに導入実績No.１の現像レスＣＴＰプレート「アズーラ」、クラウドワークフローシステム「Ａｐｏｇｅｅ　Ｃｌｏｕｄ（アポジー・クラウド）」、ＵＶインクジェットの製品を出展する。

(1)アズーラで会社が変わった

国内販売開始から14年目の現像レスＣＴＰプレート「アズーラ」がなぜ、支持され続けているのか。「アズーラ」ユーザーの声を紹介。

(2)ワークフローはクラウドの時代

世界初クラウドワークフロー「Ａｐｏｇｅｅ　Ｃｌｏｕｄ」導入の経緯から、現在の印刷会社のあり方のヒントを紹介

(3)フレッシュプリント

印刷現場のムダをなくし、さらにクライアントの印刷物のムダもなくす革新的な仕組み「フレッシュプリント」を紹介。

◎現像レスプレートシェアＮｏ.１　検版できる現像レスＣＴＰプレート「Ａｚｕｒａ（アズーラ）」◎導入成功率１００％高精細ＸＭスクリーニング「Ｓｕｂｌｉｍａ（スブリマ）」／Ｓｕｂｌｉｍａ　Ｇａｌｌｅｒｙ（Ｓｕｂｌｉｍａ＋コンテスト２０１７～２０１８年受賞作品展示）

多彩なコンテンツ制作支援

――ＶＰＪ

ソリューション紹介

㈱ビジュアル・プロセッシング・ジャパン（略称・ＶＰＪ、本社：東京都渋谷区、代表取締役会長兼社長：三村博明氏）は「ｐａｇｅ２０１８」でコンテンツビジネスを支援するＩＴソリューションベンダーとして「次世代印刷ビジネス成功のカギを握るコンテンツ制作支援のＩＴソリューション」を紹介する。

本展示会では印刷業界向け制作ワークフローサーバー「ターボサーバーＥＸＰＲＥＳＳ」を中核に、媒体制作を支援するさまざまなＩＴソリューションを紹介する。

【出展ソリューション】

「生産性向上とビジネス拡大を実現する」印刷会社のためのＩＴ戦略、媒体制作を支援するＩＴソリューション

▼ソリューション①「情報セキュリティー強化」

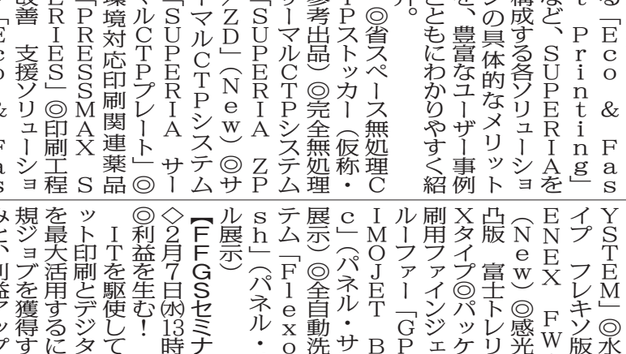
ＬＡＮ上の制作端末からターボサーバーＥＸＰＲＥＳＳへのマウント操作ログを収集・管理できる。

▼ソリューション②「オンライン校正」

煩雑なコミュニケーションが生じる校正業務において、オンラインで修正指示・情報共有・承認・とりまとめを行うことでスムーズな制作進行が可能となり、余剰作業やミス、コストを削減できる。

▼ソリューション③「Ｗｅｂ　ｔｏ　Ｐｒｉｎｔ」

ＤＭ／ＰＯＰ／冊子／インキ使用量も削減でき、コスト削減にも威力を発揮、さらに現像レスプレート「アズーラ」との組み合わせで超安定高精細印刷を実現する。



▼世界初クラウドワークフロー「Ａｐｏｇｅｅ　Ｃｌｏｕｄ」◎プリプレスワークフロー「Ａｐｏｇｅｅ　Ｓｕｉｔｅ　１０・５」◎オンラインストレージサービス「Ａｐｏｇｅｅ　Ｄｒｉｖｅ　２・０」

最新バージョンの実演デモを行う。

▼産業用ワイドフォーマットＵＶインクジェットソリューション

◎ＡＮＡＰＵＲＮＡ　ＲＴＲ３２００ｉ　ＬＥＤ◎ＡＮＡＰＵＲＮＡ　Ｈ　ＬＥＤ◎ＭＩＲＡ　ＬＥＤ◎ＪＥＴＩ　ＴＡＵＲＯ　ＬＥＤ◎ＪＥＴ・進行管理が行える。Ｅｘｃｅｌなどによるつどの台割変更やアナログなコミュニケーションを排除できるため、台割編集やメンテナンス、情報共有における手間の大幅な削減が実現する。

▼ソリューション⑤「商品情報管理＆自動組版」

商品のスペックや価格、販売期間などの各種商品情報を商品画像データと合わせて管理することができ、商品情報・商品画像をＩｎＤｅｓｉｇｎ上に流し込むことが可能。

▼ソリューション⑥「画像処理オートメーション」

撮影画像がターボサーバーＥＸＰＲＥＳＳに入稿されると、解析・品質チェックを経て選別された画像だけが自動で加工／変換処理が施され、処理結果を再度オンラインで共有できる。

▼ソリューション④「台割管理」

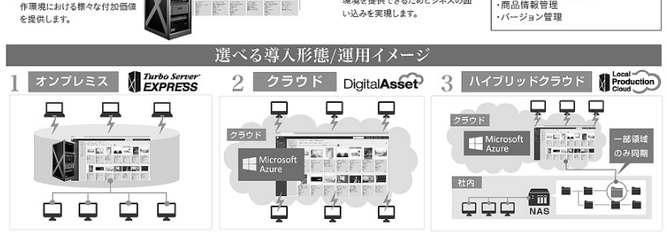
システム環境に依存することなくＷｅｂブラウザ上で直感的に台割編集・進行管理が行える。Ｅｘｃｅｌなどによるつどの台割変更やアナログなコミュニケーションを排除できるため、台割編集やメンテナンス、情報共有における手間の大幅な削減が実現する。

▼ソリューション⑤「商品情報管理＆自動組版」

商品のスペックや価格、販売期間などの各種商品情報を商品画像データと合わせて管理することができ、商品情報・商品画像をＩｎＤｅｓｉｇｎ上に流し込むことが可能。

▼ソリューション⑥「画像処理オートメーション」

撮影画像がターボサーバーＥＸＰＲＥＳＳに入稿されると、解析・品質チェックを経て選別された画像だけが自動で加工／変換処理が施され、処理結果を再度オンラインで共有できる。



「ロケーションフリーＣＴＰ」提案

――コダック

コダックジャパン（本社：東京都品川区、代表執行役員社長：藤原浩氏）は「ｐａｇｅ２０１８」で、「ＰＲＩＮＴ　ＦＯＲ　ＧＯＯＤ－Ｒプラットフォーム、次世代のインクジェット技術、ＵＬＴＲＡＳＴＲＥＡＭなど最新のインクジェットソリューションによる多彩な印刷アプリケーションや、品質と一貫性がさらに向上したＫＯＤＡＫ　ＦＬＥＸＣＥＬＬ　ＮＸフレキソソリューションのサンプル展示に加えチラシ・ＤＭなど印刷物の付加価値を高めるマーケティング支援サービスについても提案する。

ＵＶ印刷対応の完全無処理ＣＴＰプレート「ＳＯＮＯＲＡ　ＸＪプロセスフリープレート」は、日本国内での販売開始以来、既に３５０社を超える顧客に導入され、優れた視認性、耐刷性、印刷適性、機上現像性能に高い評価を得ている。

視認性は従来比１・５倍向上し、油性枚葉印刷、省電力ＵＶ印刷では10万枚、オフ輪では50万枚を超える耐刷実績を有する（耐刷性能は印刷条件によって異なる）。

またＳＯＮＯＲＡ　ＸＪは、コダック独自の単層構造のプレートであるため、酸素遮断層や感光層が湿し水に溶け出して湿し水を汚染することもない。従来の現像ありの刷版と同様に何の違和感もなく普通に印刷できるプレートとして印刷機のオペレーターからも好評を博している。

現像機がなくなったことで薬品の購入コスト、廃液の回収コスト等、年間２００万円近くのコスト削減に繋がるという。

ＡＣＨＩＥＶＥはコダックの多彩なプレートセッターラインアップの中で最もエコノミータイプのモデルで、ベストセラーモデル、ＫＯＤＡＫ　ＴＲＥＮＤＳＥＴＴＥＲと比較して消費電力を64％削減、イメージング時のピーク電力はわずか４００Ｗを実現した省電力タイプ。インラインパンチも新たに選択可能となったことで、さらに自動化機能が拡張されている。

ＳＯＮＯＲＡ　ＸＪとＡＣＨＩＥＶＥプレートセッターとの組み合わせは、ＣＴＰは製版室（刷版室）に設置するものという概念を覆し、印刷機の近くや製作現場等にも設置可能となる。

さらにプレート版面上に印字情報などをインクジェットシステムにより印字できるＳＯＮＯＲＡ　Ｊｅｔに関しても紹介する。

チラシなどエリア単位で必要となる販促媒体を顧客の販売店舗・拠点ごとに顧客自らがオンラインで簡単に制作できる「Ｗｅｂ　ｔｏ　Ｐｒｉｎｔ」サービスを提供することが可能。

KODAK ACHIEVEプレートセッターALモデル

UV・油性含め完全無処理化実現

ガム処理の手間・コストがゼロに

FFGS SUPERIA ZP ZD 導入事例

――望月印刷㈱

山根徹也氏

埼玉県の総合印刷会社、望月印刷㈱（本社：さいたま市中央区円阿弥５－８－36、代表取締役社長：望月諭氏）は、昨年９月、ガム処理タイプの現像レスＣＴＰプレートを、富士フイルムの完全無処理サーマルＣＴＰプレート「ＳＵＰＥＲＩＡ　ＺＰ／ＺＤ」に切り替え、100％無処理化を達成した。執行役員生産部部長・山根徹也氏が「ＳＵＰＥＲＩＡ　ＺＰ／ＺＤ」導入の経緯や効果などについて語った。

【環境負荷低減と地汚れ解消のため最新のプレートを検討】

ＳＵＰＥＲＩＡ　ＺＰ／ＺＤ

望月印刷は、1950年に創業。官公庁や大学・専門学校などの文教関係、自動車ディーラー、金融機関などを主な得意先とし、埼玉県を拠点に堅調に成長を遂げてきた。設備面ではＡ全判ＵＶ印刷機など5台のオフセット印刷機と、カラー／モノクロ合わせて3台のＰＯＤ機を有し、クライアントからの多様な要望に応えている。

全国各地の中堅印刷企業15社で構成される事業協同組合「ＥＰＣ－ＪＡＰＡＮ」にも参画し、課題解決型ビジネスの強化にも力を入れている。

また同社は2013年10月から独自の環境マネージメントシステムを運用しており、法令遵守はもちろん、環境教育の実施、環境負荷低減の目標値管理などを徹底している。早い時期からベジタブルインキを採用するとともに、全社を挙げて３Ｒ・ゼロエミッションを推進。2008年にＦＳＣ森林認証、2014年に環境保護印刷推進協議会の「クリオネ・ゴールドプラス」を取得した。

生産工程で導入する機資材についても、環境性を重視しながら、品質やコスト面などを総合的に評価したうえで選定している。

「2014年5月に従来の有処理プレートから現像レスプレートに切り替えたのですが、それから3年が経過したのを機に、より環境負荷の少ないシステムをあらためて検討することにしました。コストや使い勝手なども含めて〝現在の最良のもの〟を採り入れようという考えです。またこれまで使用していた現像レスプレートでは、ロングラン印刷の際約1万5000通で地汚れが発生することがあり、それをいかに解消するかということも課題になっていました」（山根部長）。

同社ではＣＴＰプレートなどの印刷資材に関して、導入から約3年を目途に再検討を行うことが多いという。それはメーカーの技術が日進月歩で進化する中、つねに最新の製品を使用していきたいと考えているからだ。今回のＣＴＰプレートの見直しでは、有処理に戻ることなく完全無処理化を推進したいとの思いから、2社の製品に絞って比較検討した。

【印刷診断、勉強会を経て、3カ月間の検証テストへ】

望月印刷は、昨年5月から3カ月間にわたり、色の再現性や耐刷性、視認性などを中心に、「ＳＵＰＥＲＩＡ　ＺＰ／ＺＤ」ともう一社の版で検証を進めた。

望月印刷からの相談を受け、ＦＦＧＳでは「ＳＵＰＥＲＩＡ　ＺＰ／ＺＤ」の立ち上げ時に無処理版を安定的に導入できるよう善支援ソリューションを向上させる印刷現場改善支援ソリューションを行った。

その結果から、無処理化を進めるための課題を明確化し、専門家によるコンサルティングを行った。

「ＦＦＧＳさんから立ち上げ時に『Ｅｃｏ＆ＦａｓｔＰｒｉｎｔｉｎｇ』の提案があった時は、煩わしさを感じました。しかし印刷機の状態を含めた印刷診断の結果から、プリンティングアドバイザーの方に現状の印刷機で水を絞るようアドバイスをいただきました。すると基準の90枚以内の刷り出しが可能になり、ロングラン運転では5万枚でも地汚れが出ませんでした。また理論的に機上現像のメカニズムや水の絞り方などの運用上のポイントを説明いただいたことも、導入・運用への安心感につながりました」（山根部長）。

同社は2社のプレートを比較検証した結果、色の再現性、汚れの出にくさ、耐刷性などの点で優れていた「ＳＵＰＥＲＩＡ　ＺＰ／ＺＤ」の導入を決めた。山根部長によるとプレート性能の優位性だけでなく、印刷診断やオペレーターへの丁寧なアドバイスなどのＦＦＧＳの親身な対応も、選定にあたって大きな決め手となったという。

【ＵＶ機でのＺＤ導入も、万全のサポートでスムーズに】

同社ではＵＶ・油性の印刷機を運用しており、ＵＶ印刷機で「ＳＵＰＥＲＩＡ　ＺＰ」を使用することとし、9月から本格運用に入った。とくにＵＶ印刷機は、導入直後のプレート切り替えとなったため、慎重を期して移行を進めた。

「ＵＶ印刷機での無処理プレートへの移行についても、ＦＦＧＳさんが現場でさまざまなアドバイスしてくださり非常に心強かったですね。2週間ほどで本格運用に入れました。刷り出しの早さも期待通りです。また汚れが出なくなり、品質がいままで以上に向上したことで、オペレーターの安心感が高まったのではないかと思っています。現在、ＵＶ印刷機を含め、すべての印刷機で安定した運用を行っています」（山根部長）。

また当初懸念されたプレートの視認性についても、版面に作業番号・品名・折り・表裏・色などの情報をいままでより大きな文字で打ち出すことで対応できており、現場のオペレーターも「不便は感じない」と話しているという。

「モアレなどの確認・調整は、プレート出力の前段階、データ上でのチェックを徹底しているので、運用上まったく問題はありませんでした」（山根部長）。

【ガム処理に関わる手間とコストがゼロに】

山根部長は「ＳＵＰＥＲＩＡ　ＺＰ／ＺＤ」の導入メリットについて「ロングラン運転でもまったく汚れが出なくなったことで、安心して刷ることができ、現場のオペレーターの負担軽減につながったことが大きな成果」と語り、「ＳＵＰＥＲＩＡ　ＺＰ／ＺＤ」に対する高い信頼性を強調する。

またプリプレス部門においては、従来使用していたガム液や洗浄ユニットが不要になったことで、これまで週に1回程度行っていた清掃作業もなくなり、その分の時間と労力が削減できている。さらに年間50～60万円かかっていたガム液の購入費用や、産廃として処理するためにかかっていた手間とコストがゼロになったことも見逃せない。そして環境面では、同社がこれまで取り組んできた環境対策を、また一歩前進させることになった。

最後に山根部長は、今後の取り組みについて語った。「ＵＶ印刷機での『ＳＵＰＥＲＩＡ　ＺＤ』の運用はまだ日が浅いので、今後、実績を重ねながらデータ収集を行い、さらなる品質の改善に努めていきたいと思っています。同時にＦＦＧＳさんには、より使いやすく信頼性の高い製品の開発を期待していますし、これからもＵＶ印刷に関するアドバイスなど、品質向上につながるような情報を提供していただきたいと期待しています」。

ＵＶ・油性の印刷機を運用